令和３年度授業改善推進プラン　社会科

大田区立大森第四中学校

１　昨年度の授業改善推進プランの検証

（１）　成果

・授業内容に精選により、生徒の興味・関心を深めることができた。
・授業の学習課題を明確にし、達成感をもたせることができた。
・グループワークを取り入れ、話し合いや学び合いの機会を設けることができた。

（２）　課題

・知識の定着に課題がある。
・理解度がバラバラな状態を、平均化させる工夫が必要。
・社会科として思考力の増強を更に進める。

２　大田区学習効果測定の結果分析

（１）　達成率（経年比較）

	令和２年度結果	令和元年度結果	平成 30 年度結果
第１学年			
第２学年	達成率を上回っている。		
第３学年	達成率を下回っている。	達成率を上回っている。	

（２）　分析（観点別）

①　第１学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値をわずかに下回っている。	目標値を上回っている 「短答」の項目がわずかに下回っている。	目標値を上回っている。

②　第２学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
目標値を上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を上回っている。

③　第３学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
目標値を上回っている。	目標値を上回っている。	目標値を大きく上回っている。	目標値をやや下回っている。主な要因は、休校期間の影響で、進度に遅れが出ているためである。

３　授業改善のポイント（観点別）

（1）第１学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テストを行い基礎・基本となる知識の定着を図っていく。また、ＩＣＴ機器を用いて復習の機会を設ける。	授業内で取り扱う資料を精選し、その資料から読み取れることを表現する機会を設ける。	授業に取り組む際の目標を生徒に決めさせ、授業の最後に自己評価させる。

（2）第２学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識の定着を一層図るため、小テストの導入やＩＣＴ教材の活用を積極的に進める。	発表の機会を増やし、生徒自らが考え、学習する場面を増やしていく。	知的好奇心や学習意欲を高めるために、成果がはっきりわかるような工夫を授業に取り入れる。

（3）第３学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率の目標値達成ができなかった要因ははっきりしている。正しい知識の定着ため、小テストの活用を重視する。	授業目標の理解を深めて、正しい情報のアウトプットができるように、論述問題への取組を増やす。	好き嫌いのはっきり分かれる教科なので、好きを増やすために、授業の進め方をさらに工夫する。